

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第4号(8月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

《特に発生に注意》

- 【バラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ
- 【果樹類全般】 果樹カメムシ類
- 【野菜類・花き類】 シロイチモジヨトウ、オオタバコガ

《8月の予報概要》

A 水稻

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稻			いもち病		
			縞葉枯病 (ヒメビウンカ)		
			紋枯病		
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)				
			トビロウンカ		
				斑点米カメムシ類	

B 果樹類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう	べと病				
	褐斑病				
	晩腐病				
			チャノキイロアザミウマ		
もも		せん孔細菌病			
				シンクイムシ類	
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん		黒点病			
		ミカンハダニ			
		ミカンサビダニ			
果樹類全般					果樹カメムシ類

C 野菜類 (なす)

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
なす		すすかび病			
		うどんこ病			
		アザミウマ類			

D 花き (きく)

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
花き(きく)	黒斑病・ 褐斑病				
		アザミウマ類			

E 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
野菜 花き類				シロイチモジヨトウ	
			ハスモンヨトウ		
			コナガ		
				オオタバコガ	
				アブラムシ類	
		ミナミキイロアザミウマ			
			コナジラミ類		

《(参考)8月の気象予報》

気温	低い (20%)	平年並 (30%)	高い (50%)
降水量	少ない (40%)	平年並 (30%)	多い (30%)
日照時間	少ない (30%)	平年並 (30%)	多い (40%)

(大阪管区气象台7月28日発表)

A 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月の巡回調査では、発生は一部のほ場で多かった。 8月の降水量は少なく、日照量は多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 気温 25～28℃、多湿で日照不足の時に多発し、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に発生が助長される。 田植後の余り苗を水田に放置しない。
縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月の巡回調査では、縞葉枯病の発生は平年並で見られなかった。 7月の巡回調査では、ヒメトビウンカの発生は一部のほ場でやや多

		<p>かった。また、7月の予察灯へのヒメトビウンカ誘殺虫数は一部調査地点で多かった。</p> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病で、本病に対する有効な薬剤は無い。ヒメトビウンカの防除薬剤を施用する。 ・窒素質肥料の過用を避ける。
紋枯病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 ・8月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌の一種で高温(28～32℃)、多湿時に多発する。 ・チッソ過多、密植、分けつ過多で発病が助長される。 ・品種としては、キヌヒカリは本病にやや弱い。
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。
トビイロウンカ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 ・7月の予察灯への誘殺虫数は平年並でほとんど見られなかった。 ・J P P ネットのウンカ飛来予測システムにおいて、6月に断続的にトビイロウンカが大阪府に飛来したと推定されている。 ・8月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲の株元(水際)に生息するので、稲の株元を叩くなどして発生しているかを確認する。
斑点米カメムシ類	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の予察灯への誘殺虫数は一部調査地点でやや多かった。 ・8月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、本府ではアカスジカスミカメ、イネホソミドリカスミカメ(旧名:アカヒゲホソミドリカスミカメ)、ホソハリカメムシなどの発生が多い。 ・出穂期に株元まで届くように薬剤散布する。 ・イネが出穂すると畦畔や周辺のイネ科雑草から水田に飛来してくるので、出穂10日前までには場周辺の畦畔や休耕田の除草を実施する。また、出穂前後の畦畔の除草はカメムシ類を水田に追い込むため、なるべく実施しない。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の巡回調査では、発生は少なかった。 ・8月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気温20～22℃位のやや低温で雨が多いと発生しやすい。 ・発生を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除

		を徹底する。
褐斑病	少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の巡回調査では、発生は少なかった。 ・ 8月の降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 枯枝や落葉、被害葉は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
晩腐病	少ない～やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・ 8月の降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被害果房は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。 ・ 施設内への雨滴の侵入を防ぐ。
チャノキイロアザミウマ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の巡回調査での発生は平年並でみられなかった。また、被害果の発生は平年並であった。 ・ 7月の黄色粘着トラップ調査における誘殺虫数は少なかった。 ・ 8月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
フタテンヒメヨコバイ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の巡回調査では、一部のほ場で発生が多かった。 ・ 8月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発生に注意し、被害の初期に防除する。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 8月の降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝染源となる発病枝などは取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。 ・ 風当たりの強いほ場では、防風ネット等を設置する。
シンクイムシ類	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の巡回調査では、シンクイムシによる被害枝の発生はやや多かった。 ・ 7月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ももの果実に入食するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。 ・ 被害果や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 ・フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 ・発生地域では、成虫対象の登録農薬を散布する。 ・ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけ次第ハンマーなどで殺虫する。

4 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 ・8月の降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枯れ枝をせん定し、ほ場外に持ち出し処分する。 ・6～10月に降雨が多いと発生が多い。 ・収穫前日数の長い薬剤については、散布時期に特に注意する。 ・QoI剤は、1作1回程度の使用にとどめる。
ミカンハダニ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の巡回調査では、発生は少なかった。 ・8月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ミカンサビダニ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

5 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は多かった。 ・8月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場により飛来量は大きく異なる可能性があるため、カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、発生及び被害状況を確認する。発生を認めたら、速やかに薬剤防除を実施する。 ・薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。

C 野菜類（なす）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 ・ 8月の降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被害葉は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・ 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 ・ 8月の降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 窒素過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80%で日照不足が続くと発生する。 ・ 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。SDHI 剤は、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・ 8月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ 葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・ 施設栽培では、開口部を 0.8mm 目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ 露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。 ・ 栽培終了後に太陽熱消毒を行い、施設内のアザミウマ類を殺虫する。

D 花き（きく）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・褐斑病	少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の巡回調査では、発生は少なかった。 ・ 8月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 降雨の多い場合に発生が多いので、発生前から薬剤の予防散布を行う。 ・ 被害葉は早めに取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。 ・ QoI 剤は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

アザミウマ類	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・ 8月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 品種により被害の現れ方に差がある。 ・ 施設栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ ほ場周辺の除草に努める。ビニールなどのマルチングにより、土中で蛹化するのを防ぐ。 ・ きくの残さは放置せず、ほ場外に持ち出し処分する。 ・ 感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ 葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。
--------	---------	---

E 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	やや多い～多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。
ハスモンヨトウ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・ 7月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、一部調査地点でやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発生初期に防除を徹底する。 ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
オオタバコガ	やや多い～多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発生初期（若齢幼虫期・食入前）に防除を徹底する。 ・ 幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。 ・ 摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場から持ち出し処分する。 ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ロ

		ローテーション散布を行う。
アブラムシ類	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は一部ほ場で多かった。 ・7月の黄色水盤調査における誘殺虫数は平年並であった。 ・8月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介する。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ミナミキイロアザミウマ	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・8月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗からの持ち込みや、周囲からの飛び込みによる発生が多く見られている。 ・ミナミキイロアザミウマは、きゅうり黄化えそ病などのウイルスを媒介する。
コナジラミ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・8月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリでは、CCYV（ウリ類退緑黄化ウイルス）を伝搬する。トマトでは、吸汁による果実の着色不良のほか、TYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬する。両病に対する有効な薬剤は無いため、媒介昆虫であるタバココナジラミの早期発見、早期防除に努め、発生初期に薬剤散布を実施する。 ・ハウス栽培では、開口部を0.4mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ウイルス病の発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)